

「臨地実習から得た学びと将来像の変化」

◎瀧川 未来¹⁾

熊本保健科学大学 保健科学部 医学検査学科¹⁾

【はじめに】

私は現在、熊本保健科学大学の4年次に在籍している。今回は、3年次後期の臨地実習から得た学びや気づき、さらに経験できて良かったことや経験したかったこと、将来像の変化について述べる。

【臨地実習について】

私は臨地実習に際し、実際の臨床の現場でしか得られない学びや経験を期待していた一方で、初めて臨床の現場に赴くことへの不安や責任を感じていた。そのため、知識の整理や検査手技の確認を徹底するだけでなく、先生や先輩方からの助言をいただき、臨地実習に臨んだ。

臨地実習では、様々な症例の標本観察や患者接遇など、臨床の現場でしか得られない貴重な経験を積むことができた。加えて、就職活動や国家試験対策に感じていただいた助言は、その後の学修や進路を考える上で大変参考となった。また、私が伺った施設では、ダブルライセンスの取得に力を入れており、複数の資格を持ちながら様々な検査業務を行う検査技師の柔軟な働き方は、将来像に大きな変化をもたらした。

一方で、時間の関係上、経験できなかったことも多く、検査室によっては見学が中心となってしまう場面もあった。また、実習生の立場ではチーム医療を十分に実感することは難しかった。さらに、先輩技師とのコミュニケーション量や実習中の自習時間の多さ、指導・見学内容などは実習施設間で差異が見られ、施設による環境の違いを実感した。

臨地実習を通して、大学で学んだ知識が臨床の現場でどのように活かされているのかを知ることができた。同時に、自分の知識不足を痛感し、学修意欲が一層高まった。また、患者さんと接することで医療従事者になる身としての自覚も強まった。

【将来像の変化】

臨地実習で様々な学びと経験を経て、知識や技術を身につけるだけでなく、医療従事者として患者さんの不安に寄り添い、質の高い安心・安全な医療を提供できる臨床検査技師になりたいと考えるようになった。就職後は資格取得にも挑戦し、将来的には複数の検査業務を柔軟に担い、チーム医療に貢献できる臨床検査技師を目指す。